

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 23

2017年9月26日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

第13回子どもシネマスクール in 小平 成果作品「少年ムヒカ 道徳のものさし」 プロデューサー 竹下資子

「子どもの時にこそ本物との出会いが大切！」と
考えプロといっしょに映画をつくって15年。今回は
表記の内容で実施いたしました。

私は15、6年前から新聞数紙の投稿を中心に気
になる記事をカテゴリー別に集めています。近頃
気がつく事は小中学生の意見や夢のけなげな堅
実さです。例えば「私は戦争に巻き込まれて手足
を失った子どもたちに義手や義足を作ってあげた
いです」「両親が共働きなので、私は生まれてから
ずっと保育園で生活しました。保育士の先生にたく
さんかわいがってもらいました。だから私も保育士
になりたいです」など、子ども達は自分の中に“道
徳のものさし”をきちんと持っているのです。

●製作への思い

2018年度より小学校の道徳が教科化されます。
(中学校は2019年度)毎日のニュースは大人たち
の不条理を日常あるいは普通の出来事のように伝
え、子どもたちは生まれた時からそれを見ている
大人が、彼らを憂える前に、自分たちの日々の行
いを見直してほしい、人間として正しいか、天下に
恥じない行いをしているか。大人が正しく生きよう
とする姿勢が、何よりの教育なのではないでしょうか。

新聞に寄せられた子どもたちの投稿を読んでい
ると皆けなげで、それらをまとめて大人用の道徳の
教材を作りたい位です。子ども達の投稿や意見は
劇中にセリフとして登場人物に言ってもらっていま
す。映像は当法人ホームページにてご覧いただ
けます。(http://www.eibunsin.com)

主催:NPO 法人 日本映画映像文化振興センター
共催:白梅学園大学・白梅学園短期大学
後援:小平市・小平市教育委員会

◆「少年ムヒカ 道徳のものさし」(50分)撮影にあ
たって、白梅学園大学や市内の小学校が会場とし
て使用されました。出演する子どもたちは小平市
内を中心として公募されています。



出演者や協力
者の中には白
梅学園や地域
の人々や教職
員も参加してい
ます。

(白梅学園大学 J14 教室での打ち合わせ)

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が
様々なNPO、ボランティア団体、民生・児
童委員、町内会、大学・学校などに関係する
方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間
関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上
げました。個人ベース(団体の担当者でも
可)の加入を基本とする開かれたネットワ
ークです。市民の皆さん一緒に活動に参加な
さいませんか？

コミタク会議進捗状況

黎明会 今野志保子

一言で言うと、ルート案作成に難航しています。

今年の2月には3つのルート案ができていて、小平市公共交通課が3月には小平警察に相談を持ちかけ、4月にはルート案を持って行きましたが、なかなか回答がない。

6月にやっとでた回答では、合理的根拠と住民のニーズがあるなら玉川上水沿いの道路の走行も可能ではないかと言うもので、一同唖然としました。だって相互交通で幅員が3.4mしかないところの走行を警視庁がOKするはずがないと。

しかし、幅員が狭くても通行できる条件としては①交通量が少ない ②見通しが良い ③退避場所があるの三つだとも言うので、安全確保をしながら、一番通りたい上水沿いの道路を走行しようという声ももちろん上がりました。一方で、7月には、玉川上水沿いの道路は一切通行しない案も出されました。

公共交通課は、小平警察とのやり取りを含めた形で警視庁に呼ばれ、さまざま相談した結果として見えてきた内容が、8月のコミタク会議で公表されました。

まず、ここは通れないうしろという箇所が確定したと言えます。そこはどこかという玉川上水沿い道と水車通り

が交差するところから上水新町二丁目までの玉川上水沿い道。見通し悪く、3.4m、3.8m、3.9mという隘路が連続し、車幅1.7mのキャラバンでのすれ違いは不可能。

なんとしてもここを通るためには、一方通行ならOKの幅員なので、今から住民巻き込んで一方通行にするか、道路の幅員拡張(玉川上水沿いの歩道部分を大幅に削って車道にする?)いすれ、実現可能は方法とは言えず、誰の頭の中でも却下。

というわけで、上水新町二丁目にコミタクを走らせるために、新町一丁目の方から玉川上水沿いを行って、上水新町第2公園当たりからぐるっと回り新町一丁目方面に引き返す案が浮上するようです。

また、五中通りにも3.5m、3.8mと狭い箇所があって、どうにか克服しないと通過できないことがわかりました。しかしここは、なんとか工夫してルートにしようという方向が示されています。

この地区にコミタクを走らせるということは、なんと困難な道程でしょう。

ここ南西地区が、最後まで残された訳がよくわかりました。

「分かった会」に参加して

田中 雅志

西ネットの「分かった会」講師募集中の記事に接し、地域活動への興味も相まって、3月から講師の仲間に入れて頂いています。企業人を卒業した現在、昔からあこがれていた先生を少し経験してみたいという思いが強く、参加させていただいた次第です。教えることが好きだというのが漠然とした動機です。

思い起こせば、学生時代の家庭教師のアルバイトから初めて、社会人になってからも知り合いの子どもなどに勉強を教えていました。学級経営や子ども達への躰などを経験したことがない素人講師ですが、これからの

勉強課題と捉えて、取り組んで行きたいと思っています。先輩諸氏の教え方を吸収させていただき、バランス感覚のある講師になればよいなと思っています。

最近経験した例ですが、数学の問題を教えている時のことです。幾つかのステップに分け、分かっているかどうかを確認しながらステップを上がって行くという教え方をしてみました。遠回りのように思いましたが、生徒の理解度も意外に高く、何よりも自信を持ってくれたことを嬉しく



思いました。問題が解けた時の生徒の顔には、生き生きとした輝きがあり、講師も元気を貰えました。今後もできる範囲で協力させていただきたいと思います。

[参考]

「分かった会」の今:

生徒は今、中三・9人、中二・8人、中一・9人、小六・3人の計29人が講師(18人)の熱心な指導のもと、暑さにめげず頑張って勉強しています。世話人・地域の皆さん、一度見学に訪れて励ましてあげてください。(代表:奈良 勝行)

「少年ムヒカ 道徳のものさし」鑑賞

—小平西地区第26回地域懇談会報告—

第26回懇談会は6月13日(火)白梅学園大学J14教室において開催されました。はじめに代表の草野先生より挨拶があり、7月に予定されている東京都議会議員選挙を前に、18歳選挙権を得た若者がどのような投票を行うのかに関心を持ちつつ、地域がどのようにまとまっていくのかについて、その展望を語られました。

続いて3月末に白梅学園を主要会場として、NPO法人「日本映画映像文化振興センター」によって作成された第13回子どもシネマスクール成果作品、「少年ムヒカ 道徳のものさし」(50分)が上映されました。平成28年度子どもゆめ基金助成活動として行われたもので、小平市及び小平市教育委員会の後援と白梅学園大学・白梅学園短期大学が共催として参加しています。あらすじは…

きらきら談話室の朝は、室長 佐野まさの掃き掃除から始まる。そこへ「おはようございます!」と児童達が通学路のゴミ集めをしたレジ袋を置いていく。その一人、小学5年生の渡辺一輝は幼い頃に両親を亡くし、リサイクル工場で働く祖父の良一と二人で、足るを知る質素な生活を送っていた。祖父の影響で、ウルグアイの元大

統領“ホセ・ムヒカ”を尊敬する一輝は、ズボンに穴が開いても自分で布を縫いつけて大切に履いていた。そんな一輝を、一緒に通学していたクラスメートは冷やかな目で見ていた…。そんなクラスに赴任した担任の杉浦先生は、子どもたちに「おとなにいいこと」をかかせて発表させる。その中で「もっと物を大切にしてほしい」という一輝の発言に他の子ども達が笑います。そのことから争いになります。杉浦先生は自分の道徳のものさしをもって行動してほしいと呼びかけます。最後には子ども達一人一人に夢を語らせていきます。

主人公の佐野は往年のスター上月左知子、杉浦先生は南原健朗、そして祖父役として石濱朗が演じ、それ以外はほとんどが応募した子どもたちやエキストラ(その中には白梅学園大学の教職員、家族もいます)です。(DVDが白梅にありますので関心のある方は問い合わせてください)

映画の上映後、4つのブロックに分かれて懇談会が行われ、それぞれ8時過ぎまで熱心な議論が行われました。各ブロックともそれぞれの課題を追求しながらブロック内の交流がすすめられています。(瀧口優)

各ブロック等の取組み

小平西地区地域ネットワークは、2012年以来小平市の府中街道以西を範囲として、地域交流や地域づくりに取り組んできましたが、地域を4つのブロックに分けて更にきめ細かい単位での交流を進めてきています。

第1ブロック(小川西町及び栄町)は、地域の世話人

に小川西公民館や小平市たいよう福祉センター、民生児童委員、小平十三小学校青少対、自治会代表、地域包括支援センター、障がい者支援施設、職業能力開発大学校、白梅学園大学、そして地域市民等が参加して、ほぼ毎月会合を開いています。それぞれの取組み

にお互いに協力しながら地域の課題を取り上げてきましたが、今年度後期より更に小さな地域での懇談会を行うということで現在準備中です。

第2ブロック(中島町、小川1丁目西地域・上水新町1丁目)は南台病院関連の施設を基盤に、民生児童委員、スクールコーディネーター、NPO代表、白梅学園大学等が参加して、同じくほぼ毎月1回の世話人会を開催しています。各施設や学校での取り組みへの協力、月1回のカフェ活動、そして防災訓練なども行っています。

第3ブロック(小川1丁目中央地域、上水新町2丁目)は白梅学園大学を中心とした地域で、この2年はコミュニティサロン「きよか」の運営を基本として取り組んでいます。「きよか」は毎週月曜日に開催し、毎回20人前後の参加があり、食べることを取り入れた交流を行って

きています。月1回の運営委員会で準備をすすめています。

第4ブロック(小川1丁目東地域、上水新町3丁目、津田1丁目、上水1丁目、たかの台)は、5年目に入ったコミュニティ・サロン「さつき」の運営を中心として取り組んでいます。「さつき」は週に2回(火曜日と木曜日)に開催し、今までの利用者は5000人を越えています。地域を対象とした講演会などにも取り組んでいます。

ブロックを超えた取り組みとして中学生を対象とした勉強会「わかったかい」は、小川公民館を会場として毎週木曜日夜勉強会を行い、30人の生徒と15人を越える講師の参加で、学びの支援を行っています。開始以来既に3年が経過し、受講している子どもたちも全員が高校への進学を実現しています。講師には白梅学園大学の学生も参加しています。

白梅清修中高一貫校の地域貢献活動

副校長 藤 敏明

毎週木曜日・金曜日になると放課後、元気な小学生が清修の校舎にやってくる。本校は創立してようやく今年度で12年目であるが、何か近隣地域のためにという思いがあって、小学生のために英語教室を開いている。



すでに4年目になる。清修では英語教育に特に力を入れており、現在4名のネイティブティチャーが中高生の授業をフルタイムで担当している。その中の2名が小学生

英語の世話をしているが、一人はニュージーランド出身の男性、もう一人はイギリスからの女性である。毎回面白いゲームやツールを準備して、スクリーンや教室いっぱ

楽しんでもらっている。日本語は使わず英語のみで1時間の活動が続く。

一般にネイティブ教師の生徒を乗せていく技量には感心するものがある。この2人の先生のリードも上手で、ほとんどの子どもたちは、言葉の明確な意味は理解できないが、雰囲気の流れの中で、活動を十分に楽しんでいる。もちろん発音の練習はしっかりさせているので、子供たちの英語はとてもきれいだ。保護者の方々からも楽しくしっかり学べ、そして費用がまったくかからず、手続きがとても簡単なので好評をいただいている。週1回の活動であるが、忙しい毎日を送っている小学生にちょうどいい頻度のような。各曜日とも4年生から6年生まで20名程度の女子が登録している。いまのところ特に生徒数に制限は設けていないので、入会可能。

この英語教室から清修中学に進学してくる生徒もここ数年ぼつぼつ出てきているのがうれしい副産物である。また、清修にはもうひとつ地域貢献活動があり、土曜日午前中に「学びひろば」と名づけて小学生の日頃の勉強のお手伝いをする場をつくっている。清修の各教科の教師が担当して丁寧にアドバイスしている。こちらも随時入会可能で無料となっている。勉強にちょっと困っている子どもたち、試してみよう。

6. 11 さつきバザーに参加して

白梅学園大学 子ども学部

家族・地域支援学科 3年 青木 真季

ホットスペースさつき（以下、さつき）でのバザーに、私たちは専門ゼミナール（森山ゼミ・井原ゼミ）活動の一環として、お手伝いという形で参加しました。このバザーでは、さつきを利用する人や近隣に住んでいる人などが来ており、楽しい時間を過ごすことができました。バザーが始まる前に、私たちも商品を並べましたが、お客さんが見やすいように準備して工夫していくのは大変でした。

バザーが始まると、お客さんと一緒に商品を選んだり、話をしたりするのは楽しかったのと周りを見ても楽しそうでした。また、小学生の男子は遊ぶための道具を買ったり、ある親子はプレゼントのために買ったりと様々な場面を見ましたが、顔を知っているため、「これもいいと思う。」などすすめたり、「このところどう。」などと世間話をしたりしているところを見たりして、地域と密着しているなど感じる場面も多くありました。さらに、外国人の方も買いに来て、ジュエチャーなどを交えながら買い物を楽しんでいました。

私は今回のバザーに参加した中で感じたことは、



さつきが地域の中に溶け込んでいるのだなと感じました。バザーに来た人はさつきに来ている人も多く、いろいろな人が気軽に立ち寄れる場所なのだと感じたからです。このほかにも感じたことは、みんなが楽しめる時間だったと思います。さつきの人も、バザーに来た人も、私たち学生も笑顔で過ごせた時間だと思いました。

小平西地区まちづくり 市民ネットワークのご紹介

福井 正徳

当団体(略称:「こだい西まちネット」)は、昨年9月、主に市の西部地域において、年齢をとっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けていけるよう、住民として地域づくり(「地域包括ケアシステムの構築」)を進めていこうと、これまでに白梅学園大学の「小平西地区・地域ネットワーク」、居場所づくり(「ほっとスペースさつき」)、市民プラザこだい、民生児童委員、高齢クラブ、自治会などさまざまな活動を通して培われてきたつながりを背景に地域住民8名が発起人・役員となって

設立されました。

その後半年余り団体の目的や今後の具体的な活動内容について協議を重ね規約等を整備するとともに、4月からはキリン福祉財団から授与されることとなった助成金を活用して、次のような学習会やシンポジウムを主に白梅学園大学小平学・まちづくり研究所(「小平学研究所」)と共同で小平学・まちづくり研究会として開催してきました。今後徐々に活動範囲を広げていきたいと考えています。

☆2月28日 <小平市における地域包括ケアの現状と課題>*

講師: 小平市高齢者支援課 星野課長補佐

*当該企画は小平学研究所の主催(「こだいら西まち

ネット」協賛)で行われた研究会で白梅学園大学

小松理事長による講演<小平学の可能性>とともに
行われたものです。

☆5月9日 <医療と介護の連携を考える>

講師: 小平すずきクリニック 鈴木道明医師

☆6月3日<「口腔ケア」でオーラルフレイル予防!

>

講師: 歯科衛生士・介護予防指導員 木村重子

氏

*当該企画は「こだいら西まちネット」の単独企画で
同

講演とともに小平市民有志による健康体操「小平
い

きらく体操」も行われました。

☆7月11日 <小平市の地域包括支援センターの
現

状と課題>

講師: 小川ホーム 小林美穂所長

★予定-10月14日 シンポジウム<先進事例に学ぶ
生活支援と住民の力>

シンポジスト: 大垣市、武蔵野市、稲城市、小平市
(各市の高齢者福祉担当部門職員)

こんにちは。地域包括支援センター けやきの郷です!

地域包括支援センターけやきの郷 生活支援コーディネーター
三島洋・野村典子

地域包括支援センターは小平市の委託を受けて、
高齢者の方を中心に、皆様が住みなれた地域で安心
した生活を続けることができるように(これを地域
包括ケアシステムと呼びます)様々な支援を行う総
合相談窓口です。「この困り事はどこに聞いたらよい
か分からない」「近所のご高齢の方が最近元気がな
くて心配」「介護予防体操はどこでやっているの?」な
ど、どんな事でも結構です。皆様、お気軽にお声
をおかけ下さい。

そして、本年4月から、この「地域包括ケアシス
テム」を新たな地域づくりの観点から本格的に前進
させていくために、市内にある地域包括支援センタ
ー5ヶ所に「生活支援コーディネーター」が9名配
置されました。生活支援コーディネーターとは、住民の

皆さんと一緒に地域の支えあいやつながりを増や
していく「地域支え合い推進委員」のことで
す。けやきの郷の地域は、職員の三島と野村が担
当をさせて頂く事になりました。現在は、小平西地
区地域ネットワークをはじめ、地域の皆様のとこ
ろに伺い、様々な勉強をさせて頂いている最中
です。今後、この西圏域にどのような助け合い・
つながりの絆を作っていくのか、具体的に住民
の皆さんと一緒に考え動く日々が始まります。「
安心して生活できる地域」「皆で助け合える自
慢の地域」この様な声が、ますます溢れる西
圏域を目指して、住民の皆様と力を合わせ頑
張って参りたいと思います。どうぞ宜しくお
願い致します。

地域の公民館をめざして

小平市立小川公民館 小山 豊

公民館主催の講座について、触れさせていただきます。公民館主催講座企画について、以前は講座終了時のアンケートや年1回一般公募の「講座のための意見交換会」を参考にして各館長が企画していましたが、



公民館事業をより多くの方々にも興味を持っていただけるよう、地域の特性や様々な意見を講座に組み入れるため、平成28年度より事業企画委員会を立ち上げました。

委員は、その地域で活躍されている学校関係、青少年対策地区委員、民生委員・児童委員、自治会、地域

包括支援センター、老人会、利用者懇談会などの方々にお願ひしました。

会議は4月から10月迄の月1回、講座案を提出してもらいグループで討議し、講座内容・回数・講師などを決めていきます。

その結果、地域支援講座、防災・生活安全講座、健康づくり講座、子育て支援講座、ジュニア講座、シニア講座、文化・教養講座が決定しました。

委員からは、「地域の特徴や利用者の意見を講座に入れられた。」「委員のアイデアやいろいろな意見の素晴らしさ知ることができた。」「異業種、異分野の方々と知り合いになり、それぞれの分野のを知ることができ、とても有意義で勉強になった。」などの感想があがった。

このように、今後公民館事業は、地域の方々の協力を得ながら、作りあげていくものになると思います。

第32回小平市たいよう福祉センターまつり

— やきとりで今年も貢献 —

9月3日(日)第一ブロックの小川西町にあるたいよう福祉センターにおいて「センターまつり」が開催されました。当日は天気にも恵まれ、たくさんの方が来場しました。開会式では小平市長をはじめとして来賓のあいさつがあり、こげら合唱団の歌もありました。センターの内部では手話や展示の練習、小平第13小学校の展示などもあり、大いに楽しむことができました。地域にゆかりのある人々との再会もあり、楽しい1日を過ごす事ができました。



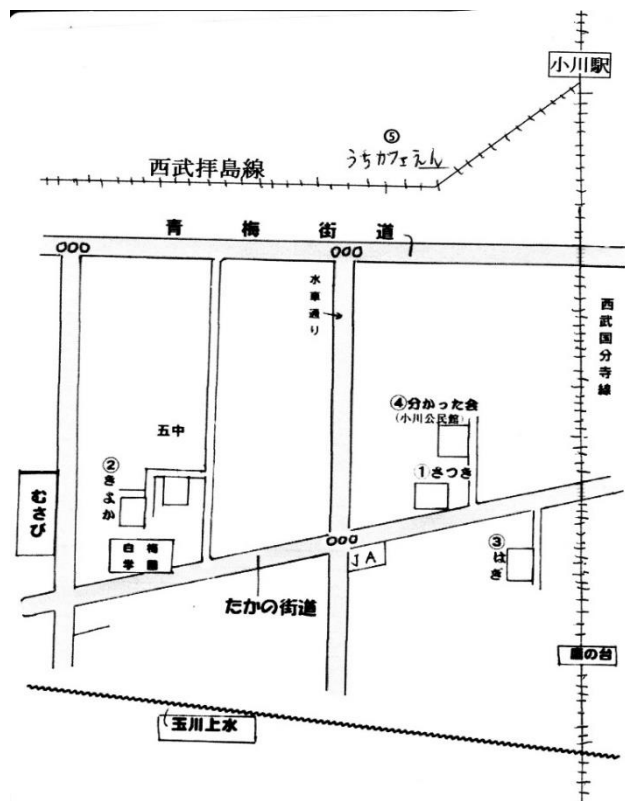


小平西ネットの第一ブロックは、例年保育科の1年生が模擬店のヤキトリ販売で貢献してきましたが、今年も13人がボランティアとしてヤキトリの販売に参加しました。昼食を前にしてたくさんの方々から声をかけて頂き、1時過ぎには400本が完売しました。学生たちはこれからゼミナールとして研究や実践をスタートするわけですが、こうした体験を通して研究の手がかりがつかめると思います。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 10:00~15:30
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無科学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちカフェえん」(小川町)**
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



西ネットの今後の予定
 学内会議: 10/10, 12/5, 1/9, 1/30
 世話人会: 11/21, 2/6
 懇談会: 12/19, 3/10

イベントの予定

10月14日(土) 先進事例に学ぶ—生活支援と住民の力
 13時30分~白梅学園大学

- 10月21日(土) 小平十二小青少年対祭り
 10月21日(土) ~22日(日) 白梅祭(西ネットの部屋へ)
 10月28日(土) 白梅子ども学講座「乳幼児に必要なこと～スマ
 ホ社会の落とし穴」(内海裕美氏)
 10月28日(土) 黎明会秋祭り
 11月12日(日) コミュニティサロン「さつき」バザー10時～
 12月19日(火) 小平西地区地域ネットワーク懇談会

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野昂哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記：西ネットも6年目をめわえています。今号も地域の様々な取り組みを紹介することになりました。地域にはたくさん取組みがありますが、なかなか交流するところまでいきません。「小平西ネット」ではこうした取り組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました(瀧口)。